

# 育成モノづくり人材

Vol. 38

## 広島県立広島工業高校

今年で創立119周年の広島県立広島工業高校は、広島県における工業教育の拠点校として充実した教師陣と



唐立校長

設備を誇る。少子化を受けて工業高校の数が減少する中、県は「もろづくり人材育成日本一」を掲げて技能教育に力を入れている。県立広島工業に期待され、指導を受ける。

【DATA】▷校長=唐立慎二氏▷所在地=広島市南区▷学科構成=機械科、電気科、建築科、土木科、化学工学科▷生徒総数=939人▷主要設備=レーザー加工機、NC旋盤教育システム、TIG溶接機、3次元測定器など▷主な進路=マツダ、JFEスチール、トヨタ自動車、コベルコ建機、中国電力、JR西日本、広島県庁など

本練さんが準優勝に輝いた。梶本さんは卒業後、マツダに入社。技能五輪の強化選手に選ばれて、10月の全国大

# 技能承継マイスター直伝

その舞台となるのが「タラの動きを食い入る会」で旋盤職種に出場する役割は大きい。技能五輪の高校生版ともいえる「高校生もつくりコンテスト」。広島県がユニークなのは出場者への指導体制だ。高校生向けにマツダや三菱重工といった地元大手の熟練技術

その舞台となるのが「タラの動きを食い入る会」で旋盤職種に出場する役割は大きい。技能五輪の高校生版ともいえる「高校生もつくりコンテスト」。広島県がユニークなのは出場者への指導体制だ。高校生向けにマツダや三菱重工といった地元大手の熟練技術



広島大と連携した課題研究授業。生徒らは土砂災害のリスクを判定するため斜面の勾配を測定

モノづくりの理屈がわかる人、心構えがある人を育てていきたい」と（唐立校長）という。また土木科では15年から、課題研究の授業に広島大学と連携した学習を導入した。現地調査を基に、自然斜面の土砂災害のリスクがどれくらいあるかを評価するもの。14年8月の土砂災害で多数の死者を出した広島市では実践的な授業。次期の学習指導要領改訂を視野に入れて広島県が進める、自主的な問題解決能力を重んじる教育変革の試行例として注目されている。（広島・清水信彦）（金曜日に掲載）